

令和7年度第1回伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会 議事概要

1. 開催日時 令和7年7月25日（金）午後1時30分から午後3時10分頃
2. 開催場所 さくらリサイクルセンター2階大会議室
3. 出席者

伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員

小竹委員長、樋口副委員長、日野委員、里委員、田丸委員、森井委員
岡村委員、堀田委員、増田委員、藤森委員、中矢委員、森田委員
（欠席：田中委員、上田委員、森藤委員）

事務局

人権生活環境部 瀧口部長、奥田次長、比口清掃施設管理監
廃棄物対策課 馬場課長、吉岡主幹、藤田主幹
さくらリサイクルセンター兼不燃物処理場 東出主幹
浄化センター 林所長
伊賀南部環境衛生組合 高野業務室長

計画支援受託者

中日本建設コンサルタント（株） 山田課長、那須主査、大沼課員

4. 議事録

【廃棄物対策課長】お揃いになりましたので、ただいまから第1回伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会を開催させていただきます。

皆様にはお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。開会にあたりまして、伊賀市人権生活環境部長の瀧口よりご挨拶申し上げます。

【人権生活環境部長】皆さんこんにちは。人権生活環境部長の瀧口でございます。委員の皆様におかれましては、暑い中、本日の委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

また、日頃は市の環境施策であります、ごみの減量化やリサイクルの推進につきまして、それぞれお取り組みいただきましてありがとうございます。

さて、7月に入ってから35度を超える猛暑日が続いております。熱中症警戒アラートも連日、発表されている状況でございます。

また、線状降水帯等による大雨被害が全国で多発しております。このような猛暑や自然災害の激甚化は、地球温暖化が影響しているものと考えられます。

市では、その対策の1つとしてごみ減量に取り組んでいます。指定可燃ごみ袋について、市が進めるゼロカーボンシティを目指して、昨年度から二酸化炭素の排出抑制のために、バイオマスプラスチックを配合したごみ袋とさせていただいているところでございます。

また、熱中症予防対策として、市の施設やスーパーマーケットなどをクーリングシェルターとして指定しまして、暑さをしのぐ場所とさせていただいておりますので、外出時には是非ご利用いただきたいと思います。

最後になりますが、本日の会議は、清掃事業に関する主な施策の昨年度の実績について、各所属から報告をさせていただくとともに、前回に続きまして、伊賀市一般廃棄物処理基本計画の見直しについて、ご意見を頂戴したいと考えておりますので、忌憚のないご意見、ご提言をいただきますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【廃棄物対策課長】ありがとうございました。それでは、まずお配りしております、資料の確認をさせていただきたいと思います。

順に事項書、委員名簿、伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会条例、資料1、資料2になります。

もし不足がございましたら、お申し出いただきたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

それでは次に、この委員会につきましては伊賀市自治基本条例第7条第1項と伊賀市情報公開条例第24条の規定によって、会議は公開であることと、伊賀市審議会の会議の公開に関する要綱第8条の規定によりまして、会議録を作成するということです。録音をさせていただきますことをご了解いただきたいと思います。

次に、地域代表の委員様の交代がありましたので、報告をさせていただきます。新居地区より、田中栄司様にお代わりいただきました。島ヶ原地区より、増田昭子様にお代わりいただきました。布引地区より中矢幸治様に、それぞれ新しく委員として委嘱させていただきましたので、今後ともよろしくお願いします。

委嘱状につきましては、机の上に置かせていただいておりますので、ご了解をいただきたいと思います。

本日、田中委員、上田委員、森藤委員からは、所用により欠席と報告をいただいておりますので、連絡をさせていただきます。

それでは次に、今年度初めての委員会になりますので、委員会の所掌事務について改めて説明させていただきます。

【事務局】「伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会条例」に基づき、委員会の所掌事務について事務局より説明。

【廃棄物対策課長】それでは続きまして、今回新しく委員になられた方も見えますので、改めて委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。

【委員】自己紹介

【廃棄物対策課長】ありがとうございます。それでは続きまして、事務局からも自己紹介をさせていただきます。

【事務局】自己紹介

【廃棄物対策課長】本日につきましては前回の委員会に引き続きまして、一般廃棄物処理基本計画を見直すにあたり、業務を委託しております、中日本建設コンサルタント株式会社様にもご同席いただいておりますのでご了解ください。

それではここから議事に入りますので、議事の進行を委員長様よろしくお願いします。

【委員長】皆さん、改めましてこんにちは。連日うだるような暑さが続いております。太陽に迫るほどの気温ということで、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

我が国特有の四季の移ろいが無くなってしまったようで、大変寂しい気がします、これも地球温暖化の影響なのでございましょうか。

さて、私たち委員会は先ほど、課長さんからのご説明もありましたように、市長の附属機関となっております。市民生活、特にごみ減量、廃棄物に関して、行政とのパイプ役を果たす役割を担っていると、大袈裟に言うところになります。具体的にはごみの排出量を減らすことと、分別してリサイクルすることを進めると、こういう役割、そして最終的には住み良い街づくり、住み良い伊賀市にする、そういうことの実現に協力をさせていただくというのが、この委員会の役割となるところでございます。大変難しいことが書いてありますが、ずっと前に担当の課長さんから、生ごみを出す時に水分のあるやつはぎゅっと絞って出したら、それだけで随分効果が上がるんだと、こんなお話もお聞かせいただきましたので、ちょっと気が楽になったと、そういう感じがいたします。

本日の会議のメインテーマに地域のごみの減量や資源化の取り組みと、食品ロスの取り組みというのがあります。このことにつきましては今年の2月に各地区の委員さんから、各地区の取り組みについて詳細にご発表をいただいたわけでございます。その結果、同じ市内でも地域によっては対策に大変ばらつきがある、いろんな特色があるなということを感じさせていただきましたことと、また全地域共通した課題もあるな、これは委員会としてもなんとかできないだろうか、こんなことも課題として分かってきたわけでございます。

こうした調査結果が本日のメインテーマである、伊賀市の一般廃棄物処理基本計画の中にも反映をしていただいているようでございますので、市の方からのご提案に対してどうか皆さん方、忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げます。

今日は島ヶ原の委員さんがいらっしゃいますが、今日の中日新聞の記事にこんなことが書かれていました。伊賀市島ヶ原で食品廃棄物を堆肥化处理する工場が、堆肥を絵の具にして描いた壁画を製作した。同工場では焼却処分が一般的な食品廃棄物を発酵させて堆肥にし、温室効果ガスの削減に取り組む。関係者の皆さんは、環境保全のシンボルになってくれたら良い、これからも頑張っていきたい。こんなコメントが寄せられておりますので、こうした身近な取り組みについても、我々は関心を寄せていきたいなと思うところでございます。また新聞をご覧いただけたらと思います。

それでは議題(1)でございますが、清掃事業の概要及び主要政策について、事務局の方からご説明をお願いします。

【事務局】「資料1：清掃事業の概要及び主要施策について」に基づき、事務局及び各担当課より説明。

【委員長】どうもありがとうございました。

令和6年度の各項目、各施設の実績数値について、詳細にご説明をいただいたわけですが、何かお気付きのこととか、こんなことをちょっと聞いてみたいなことがございましたら、どうぞご遠慮なくご発言をいただきたいと思います。

【委員】小型家電リサイクル拠点回収実績で、ノートパソコンの回収が、2024年で増えているわけですが、これは多分Windowsの切り替えか何かで、保証期間がなくなったのでパソコンを買い換えたというようなことで増えていると思います。記憶がはっきりしませんがノートパソコンなどは、その販売店や製造者が無償で回収をするような制度があったと思うのですが、そういうのにのらないものが、こうやって回収されてきたということなのでしょう。

【清掃施設管理監】ご指摘の通りでございます。直接お問い合わせの電話があった場合は、リサイクルできますよ、売れますよということもご説明させていただいた中で、お求めになった家電量販店にお持ちいただいて、買い換えて、下取りに出すことも可能ですということも説明させていただいた中なのですが、これはもうボックスの中に放り込まれて、誰の物か分からない状況でございます。

増えた原因はおそらくそのWindowsの切り替えが原因かと考えてございます。

【委員】業者が無償回収してますよというようなことは、市としてあまりアピールしてないんですかね。

【清掃施設管理監】個々の品目に関しては特にしていないのですが、家電量販店で買われたものは家電量販店にお出しくださいということの周知はさせていただいております。

【委員】ありがとうございます。

【委員長】他にございませんでしょうか。

【委員】スプレー缶ですが、家庭から出るスプレー缶をちゃんと穴を開けているかどうか、この辺のチェックはできているんですか。要はスプレー缶の事故が最近あるのか、その辺のところをお聞きしたいです。

【清掃施設管理監】回収に来た業者が、当然袋の中身を開けるわけにはいかないのですが、カリンとか音がしたら必ず袋の中をチェックします。

スプレー缶は最近少ないのですが、あった場合は出るかどうか確認をして、それから底に穴をあけて出すというような処理をして持ってくる。もしくはそのまま、持ってこられる場合もございます。過去にスプレー缶が爆発して、パッカー車の中が炎上するという事故があったのですが、それ以降一件も報告されておられません。

逆にリチウムイオン電池の方が増えてございますので、そちらの方も取り組みをさせていただいております。

スプレー缶に関しましては、以上の通りなのですが、現場で処理をする、もしくは直接こちらに搬入して、さくらリサイクルセンターで適切に処理をさせていただいております。

【伊賀南部環境衛生組合業務室長】参考までに、伊賀南部環境衛生組合でのスプレー缶の回収につきましては、スプレー缶として資源ごみの時に、かごを設置して、スプレー缶を出していただきます。

処理の関係上、出される方によっては使い切り、穴開けで出していただくようお願いしているところがございます。しかしながら、中身が入ったままであったりとか、穴が開いてなかったりとかといった、事故の原因となる状態のものも出てはいるのですが、明らかに中身が入っているということが見受けられた場合については、未回収の場合もあるのですが、一旦はほとんど、回収して帰りまして、クリーンセンターの方で、別途穴開け処理を全て確認して、その後の破碎処理をかけられるような状態まで確認をしています。

そして、不燃ごみにつきましても電池、ライター、スプレー缶のような危ないもの、危険なものが混じってる可能性も中にはあります。伊賀南部の方では、不燃ごみを全量展開検査ということで、中身を全て確認して、そのスプレー缶が、事故の原因となるようなところまで入らないように、確認を行った上で処理を行っています。

【委員長】他にございますでしょうか。

続きまして、議題の（２）伊賀市一般廃棄物処理基本計画の見直しについて、事務局より説明をお願いします。

【事務局】「資料２：伊賀市一般廃棄物処理基本計画の見直しについて」に基づき、事務局より説明

（＊P9 修正・・・最終処分量の実績値 1,949t/年を 1,136t/年に修正。目標値についても 1,600t/年以下を 950t/年以下に修正する。）

【委員長】ただいま、ごみの削減、資源化拡大を行う各項目につきまして、目標値を示したご提案がございました。前回も説明を受けたわけですが、なかなかぴんとこない部分もあるのですが、具体的に食品のロス为国並みにする。布類は可燃ごみの中に入っているものを 25%減らす。可燃ごみの中にあるプラスチックの資源化を進めて、特にペットボトルの回収を増やす。紙類を県内の近隣市並みにする。

こういった私たちの身近な項目について、具体的な目標数値を掲げていただいたわけですが、でございますので、ただ今の説明に対しまして、前回も色々ご意見を頂戴したわけですが、改めてちょっと気になるなとか、これはできるのかと、そんな疑問などもございましたら、どうぞご発言をいただきたいと思います。

【委員】５ページのところに、「令和 12 年度までにリユース等の促進により」という風に記載されているのですが、具体的にどういう風に持っていかれるとお考えなのでしょうか。

ちょっと思い出したのは、上野の白鳳高校の方で、家具の販売というのをされているのですが、大型の廃棄物の方で、家具の方もたくさんあると思います。そういうのを白鳳高校の方に打診して、修理してリユースできるような方向で持っていくようなことも考えられると思うのですが、具体的にどういうリユースの促進方法というのをお考えでしょうか。

【委員長】５ページの布類のところにあります説明書きについて、ということでよろしいですか。

【委員】すみません。私が言ったのは家具ですが、どういう具体的なことを考えられているのかと。

【廃棄物対策課長】リユースにつきましては、13 ページのところにも書いてありますが、本来は捨ててしまうものにつきまして、最近ではリサイクルショップとか、リユースアプリ、メルカリとかそういったものが、増えております。欲しい人や必要な人に、使わなくなったものを渡していく、そういった手法もあるという啓発や、委員さんがおっしゃった、白鳳高校の活動等がありましたら、そういったものも合わせて情報発信をさせてもらっていくことで、ごみとして捨てるんじゃなくて欲しい人に譲っていく、そういったことの取り組みが進めていければなと思っております。

【委員長】今回の具体的な目標項目の中には、大型の家具類については、今のところ具体的にに入れていないということではよろしいですか。

【廃棄物対策課長】はい。家庭ごみで、パッカー車などに収集するようなごみのことを、主に置いておりますが、今おっしゃられたような家具の話などもありますので、ここでは今はないのですが、全く考えていないということではないです。

【委員長】今回の基本計画に限っては、集約してこの項目として挙げられているということでございます。

1 ページから 9 ページまでの、項目設定に関する具体的な根拠も示していただいたわけですが、まずは 9 ページの目標数値。この数値案について、何かご意見がございましたらお聞きしたいと思います、いかがでしょうか。

また後でも結構ですが、11 ページから 14 ページにかけまして、これは前回の委員会で委員の皆さんからご意見があったことも踏まえて、行政の役割をどうする、市民の役割をどうするというのを採用していただいております。これらについて、何かございましたらご発言をいただきたいと思っております。

【副委員長】私のほうからも、一つは先ほど話題があった布類の 25%削減というところがあって、20.4g が 14.91g となっているのですが、これは厳密に言うと 25%削減ではないなと思うのですが、これは何か意図のある数字なのか、単なる計算間違いなのか、どちらでしょうか。

【コンサル】私の方からお答えさせていただきます。国の目標の方では、令和 2 年度から令和 12 年度までに 25%削減するということを掲げております。すいません、このパワーポイントには記載しておりませんが、令和 2 年度の可燃ごみ中の布類が、19.88g ということですので、そこからの 25%削減ということになります。

【副委員長】分かりました。

もう一つ、9 ページの目標値のところで、年度ごとの削減の様子が書かれているのですが、これは伊賀市における今後の人口動態と比べて、それを上回る削減になっているのかということだけ確認したいです。要するに人口の減少と同じレベルの削減だったら何の努力もしなくても減ってしまいますので、あまり意味がないということなんです、そのあたりは何か数字で表してもいいのかなという気がするのですが、いかがでしょうか。

【コンサル】この数字に関しましては、施策現状維持、このまま人口減少だとか今までやられていたごみの削減というのを、続けていった場合、その値が、まず記載されているのですが、それにプラスアルファで今回お示した削減目標とかを行なった場合の、削減量というのが、505 トンとかこのグラフの中の数字で示させていただいている数字になりますので、元々の数字はもう少し多いのですが、今回新たにプラスアルファでやることで、505 トンの削減を追加で頑張っていきたいと思いますという形で示しております。

【副委員長】ということはこの 505 トンというのは、人口減少で自然に減っていく量にさらに加えて 505 トンも減らすということですね。

【コンサル】おっしゃる通りです。

【副委員長】今の説明を聞くとはっきり分かるのですが、もう少しクリアになるような、文章にしていただければと思います。それなら数字はオッケーです。

【委員】2 点だけ聞きたいのですが、資源化をした後に、具体的にどういったものにプラスチックが変わっていくのかというところ。それと、何年か前に分解していくプラスチックというか、そういった樹脂が開発されるんじゃないかという話を聞いたことがあるのですが、分かる範囲内で結構です。お聞かせいただけますか。

【委員長】ペットボトルを資源として活用するうえで、どういう形を想定されているのかということと、ペットボトルそのものが、自然と分解されるような成分のものが開発されてるんじゃないかというご質問だったと思います。いかがでしょうか。

【廃棄物対策課長】ペットボトルにつきましては、回収したリサイクル業者の方をお願いをして、リサイクルしていただくという形になるのですが、一番良いのはペットボトルを

再度もう一度ペットボトルにすることが一番の理想ですが、難しいということも聞いております。

このペットボトルにつきましては、例えば、会社によっては服、洋服に、リサイクルをしていただくという形で考えております。伊賀市として、どういう風な使い方というよりは、リサイクル業者をお願いして、リサイクルしていってもらおうという形かなと思っております。

それとすいません不勉強で、分解されるペットボトルですかね。

【委員】農業関係の肥料ですね、コーティングの肥料というのはもう終了になってまして、樹脂コートということで肥料成分を包んでいるのですが、ところが肥料が抜けて、その殻だけになって分解しない、という問題が出てきております。

3年か4年の間には、分解してしまう樹脂コートに変えていくという話は聞いたことがあるのですが、実際にそのプラスチックも最終的には分解していくようなものになっていくのではないかなと。そういう話なのですが。

【コンサル】私の方から、お答えさせていただきます。いわゆる生分解性のプラスチックというものの開発については、従来から進められてきておりまして、実際商品化されているものもございます。

ただ、プラスチックを分解してしまうという形になると、使われる用途というのにも限られてくるところがありまして、食品の容器とかに使われているようなプラスチックはなぜ使われているかという、その食品を安全に保管できるというところに大きな目的があります。簡単に分解してしまっただけでは困りますし、食品の中に溶け込んでも困るというのがあります。

そういったところで、分解するプラスチックを使えない商品というの、実際のところあるというのが現状だと思います。なので、用途によってはすでに分解されるプラスチックというのが用いられているものというのがあります。いわゆるレジ袋のようなものについても、分解性の袋ですと書かれている袋というのが、実際に、世の中に出回っている部分もございますので、そういった安全に分解されますよというようなものもございます。

ただ、ここで言っている、リサイクルするプラスチックというのは、なかなかそういうことができないものを集めて、出来ればプラスチック製品として、新しい素材として使っていく。そのようにリサイクルしていこうというのが、今回の計画でいうプラスチックの部分かと考えております。

【委員長】よろしいでしょうか。

【委員】ありがとうございます。

【委員長】他にございますでしょうか。

特に4つのRに対して、施策案が提示されているわけでございます。私たちの委員会の意見も踏まえて、お作りいただいたわけでございますが、今年の秋ぐらいには、それを取りまとめて中間的な案が出されるだろうと思いますので、それまでに反映していただけるようなご意見をいただければ、大変ありがたいと思います。

いかがでしょうか。

【副委員長】大きな国の動向などを見ながら、夢物語でもない、無理のない案なのかなという感じで全体的に見させていただきました。

それはそれで良いかと思うのですが、我が町らしい、これに関してはもう少しチャレンジングな挑戦をしてみようかみたいなものが、本来だったら一つ二つあってもいいのかなというのは、私の個人的な感想ですが、もしそういうものが、市として謳えるものがあれば、ここに関してはこだわり持ってやってみたいなのというのがあってもいいのかなと思っております。それはあれば良いと思います。

もう一つは、昨今特に、この前の選挙なんかでも話題になりました、外国人の方との共生、そういうことが、問題にもなっておりました。大きな問題の一つが、やはり地域の中での軋轢、我々がずっと当たり前のようにやってきたマナーというのが、だんだん通じな

くなってるコミュニティが出てきているということもあって、ここにも 4R のリデュースのところでは、多言語による情報提供、啓発活動の充実ということを挙げていただいております。ごみに関しては、地域との共生というところは、結構大事な話題ですので、この 4R で言ったらリデュースに限らず、全ての分野でいろんな言語で発信して、古くからコツコツと住民がやってくる小さな努力を、外国のコミュニティの方にもきちっとやってもらうというためにも、なるべく全ての分野に多言語での発信というのがあった方がいいんじゃないのかなというのが、昨今の流れの中での意見でございます。以上でございます。

【委員長】ありがとうございます。目標値としては無理のない範囲で設定されている。ただし、伊賀市らしさというのはちょっと欲しいなという先生の感想でございました。外国人への対応についても、大きな社会問題にもなるわけでございますので、少しそこらも加味していただけたらと、このようなご意見でございます。

皆さんよろしいでしょうか。

そうしましたらこの会議をもって、基本計画に対する委員会としてのご意見を申し上げる機会は終わるわけでございます。進行を事務局の方へ戻させていただきますので、よろしくをお願いします。

【廃棄物対策課長】委員長ありがとうございます。委員の皆さんも、ご意見いただきましてありがとうございます。

事務局から、「その他」の事項としまして、次回の委員会の日程について連絡をさせていただきます。次回の委員会につきましては、10 月に開催を予定しております。委員の皆様には、またご案内の方をさせていただきますので、引き続きご出席いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして、第 1 回伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会を終了させていただきます。皆様どうもご意見ありがとうございました。